

月見の里短歌ワークショップ

尾内甲太郎 2025 年 9 月 27 日

① 水解

② 虫食い短歌

- このビルの方こうに[]があることをかもめの声に教えてもらう／千種創一
- 血球が血管を掠る音などをしづかといへり[]月まひるま／小原奈実
- 雪、それは発されぬまま息絶えた言葉の灰が宿した[]／馬場めぐみ
- 履歴書にけして書かないことだけが僕を[]へ連れてゆくのだ／田中翠香
- 墓地に咲く[]の数記してのち山鳩色のノートを閉づる／永井陽子
- 秋晴れの今日は祭り日[]をひと箱買ってデパートを出る／石川信雄
- []をふかせる君に肺といふ逆さの桜いま咲きほこる／藪内亮輔

③ あいだの主体

◆堀田季何の説

作者総体
作者名義

(作者実体 (生活者)
認識主体 (作者)

作中主体 (視点主体 (話者)
作中行為者 (主人公)

※解釈者の存在がない。

◆あいだの主体説

(※ 多重主体主義／小倉紀蔵『日本群島文明史』)

読み手→ あいだの主体 ← 認識主体

他の人→

他の人→

〈枯芝やバンクシーなら声を描く／なつはづき〉

〈"ぼくら"というひとつになれぬまますぎた日々の

地球の街に雪降る／馬場めぐみ〉

④ 新聞歌壇から

替える朝

名古屋

外山

雪

現実の水際に立ちて体内の部品をひとつ取り

かけてゆくのですか 浜松市 尾内甲太郎

事件ですか事故ですかそれとも流れ星を追

を濡らす遠き初恋 東京 福島 隆史

カルピスのグラスに付いた水滴がコースター

の意味があるのでしょうか 守谷市 久保田洋二

「もしもし」に添えています「もしもし」はどういう

かたまりの雲がゆっくり流れていく生まれる

まえのあなたを置いて 平塚市 芝澤 樹

話を掛けたい 武蔵野市 北谷 雪

雨のあと土の匂いに驚いておどろいて君に電

た次の日 雲南市 熱田 一俊

消印は二十世紀まっしろな郵便受けを置

氷のくぼみ 吸わない 横須賀市 森久保りりか

大人になるとはどういうことだストローが触れる

描写だ。音楽の喜びが全身に表れている。

音楽にからだはゆれてそのあとですこし遅れ

て髪ゆれている 大阪市 羽水 繭

△評▽後ろから見ているのだから。巧みな

たように思う。その束縛から自由になっ

もいいのだ。人類の帽子は大胆である。

あきらめるって気持ちよかった人類の帽子が似

合わないわたしたち さいたま市 霧島あきら

△評▽ずっと、あきらめるなど言われてき

加藤 治郎 選

毎日歌壇 2024 年 10 月 14 日毎日新聞

⑤ 「誰にも伝わらないと思ったあなたのことば」を使った歌会